

公表

事業所における自己評価総括表

【放課後等デイサービス】

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス おとは		
○保護者評価実施期間	R7年1月20日		～ R7年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	R7年1月20日		～ R7年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月10日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の心身の成長に合わせて、自立を見据えた支援を考え取り組んでいる。	個々の課題となる状況を実践しながら、軽減や習得につながるように支援を行っている。子ども同士の関わりを増やしコミュニケーションをとる練習も兼ねて集団活動も行っている。ご家庭での様子をお聞きしながら、本児がストレスなく参加ができるように取り組んでいる。	保護者や関係機関からのアセスメント情報を基に、情報共有を行い職員一人一人が支援の方向性を合わせ支援の質を高める。また個々の自主的な行動や心身の成長を感じられるようなプログラムの立案に努める。保護者の方へ将来像のイメージを持って頂きながら、ご意向と療育の必要性を感じて頂く。
2	看護師、児童指導員、保育士により安心して利用できる環境の中様々な活動が提供できる。	会議等も含め、日々の情報共有を行い、職員同士連携して支援ができるように工夫しながら取り組んでいる。体調管理も含め、保護者様からの情報を頂きながら、個々が安心して過ごし活動に参加できるようにしている。	日々の職員間での情報共有や保護者様からの情報などを共有していく。様々な意見を出し合い、質の良い提供に繋がるように意識を図る。役割や仕事分担を行い負担なく業務の遂行ができるように連携をとる。
3	広い空間を児童の特性によって使い分けすることでストレスなく過ごせる。部屋全体の見通しがたつ。	利用当日の児童によって空間の使い分けや、職員同士で意見を出しやすい雰囲気作りを行い、活動の流れや目的に沿って活動が実施できるように、必ず打ち合わせをしている。また気づいた点や良かった点なども次回に繋げられるようにしている。	児童の成長とともに、情報共有を行い、安心して個々の力を発揮できるように、個々との関係性や支援の向上に努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学童や地域の子ども達との交流ができていない。	1事業所同士での交流は難しく、なかなか交流機会が取れていない。交流機会を持つための接点がない。公園遊びでは一般の方と一緒にいることがあるが、「交流」となっても障害特性を理解をされていないことが多い為、やり取りの仕方が課題となっている。	外出活動での地域交流や通園している園などに交流提案などをする事で社会と関わる取り組みに繋がられるようにする。公園遊びなどを取り入れ地域の子ども達と関わる機会を増やしていく。学童や地域の行事などに参加できないか情報収集を行い事前に計画などをたて検討する。
2	保護者同士が交流できる機会が十分できていない。	事前にアンケートをとり、共通の話題に特化して会を設けたり、保護者同士で話せるような機会は作っているが、参加者が少ない為、十分に保護者同士のやり取りに繋がらない。また活動公開などの日を設け、家族で参加して頂く事で交流につながるような取り組みをしている。保護者同士の繋がりを求めない保護者もいる。	機会は設けつつ、開催時期を検討することで参加に繋がるようにする。当事業所のみで保護者参加型の機会を設け関わる機会を作る。
3	その都度児童の状態に合わせた柔軟な職員配置は現状難しい。	その日の子どもの状態や送迎時間によって職員対応が難しいこともある。十分な見守り、療育ができないこともある。	少ない職員で子どもの対応を行こななければいけない時は、事前に流れや、対応の仕方、職員の不安要素などが無いかな、確認とすり合わせを行い改善に努める。

公表

事業所における自己評価結果

【放課後等デイサービス】

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス おとは				公表日	年	月	日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		児童福祉法に定められた基準を順守し、限られた環境で適切な療育に繋がるように工夫をしている。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	5	連携などを心がけ、安心して過ごせるように内容のすり合わせなども行っている。状況によって少ない日もあるが、児童福祉法に定められた基準を順守し配置しており、それを上回る体制をとっている。	安全面の不安や、子どもの状態、送迎の時間によっては厳しい日もあるように思われる。全体的に職員の数が少なく、十分な見守り、療育が行えないと感じる。その都度児童の状態に合わせた柔軟な配置は現状難しい。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		賃貸住宅の為バリアフリー構造ではない部分が多いが、環境整備を意識している。またパーテーションを使用、事故を未然に防ぐ為に動線を意識した配置にし、生活しやすい環境になるように工夫している。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		空間の中には書類や備品なども多くあるが、場所を使いわけ心地良く過ごせるように工夫している。室内清掃や消毒は毎日実施し感染予防している。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		個々が快適に過ごすために、目的に応じた空間での部屋の使い方に対応している。マットを使用するなど、領域空間作りなどを行い対応している。					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		職員間で振り返りや意見交換を行いながら取り組んでいる。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		事業所評価にて把握し業務改善に繋がるように努めている。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		業務を行う上で気になる点が出てきた際には、都度職員間で話し合いを行ったり、月1回の会議や年1度の面談等を実施。他必要に応じて改善に繋げている。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5		現在のところ、第三者による外部評価委は実施していない。必要性を検討した上で今後体制を整えていきます。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		定期的実施している。					
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		おたよりやHPに公表している。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		子どもの日頃からの様子や、保護者からのアセスメントを行いながら作成している。					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		職員全員で検討し共通理解の下で個別支援計画書を作成している。					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画した支援を実践できるよう職員間で情報共有し取り組んでいる。					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		標準化されたツールは使用していないが、発達検査結果を基に日々の行動観察などを含む保護者様などからのアセスメントにより確認している。					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		児童発達支援ガイドラインに沿った支援計画になるように立てている。					

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		会議などで利用児童が必要としている活動を検討し繋げている。また季節や地域行事を含め様々な成長に繋がるようプログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		個々の成長に合わせて活動プログラムを提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個々の状況に応じて課題を目標と総合支援の中に取り入れ個別支援計画書を作成し支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	必ずとはいいがたいが出来るようにはしている。全体で打ち合わせができるのは限られた時のみで個々の隙間時間を見つけて話している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	5分でもいいので、気付いたことを伝え合い情報共有を行い、次に活かせるようにしている。必ず行える時間はないので、ツールで伝達している。	送迎や日々の記録等に追われ当日に職員間で共有するのは難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		記録を記入しやすいように工夫し、徹底して記録をとっている。気づきや検証をその場で話し合い改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的に職員間で情報共有し定期的に見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		自立活動やクッキングなどの活動、公園遊び、自由活動などの機会を設け支援を行っている。	地域交流の機会があまりなく、取り組めていないことがある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		選択肢の方法や「どうすればいいのか」助言をするなど自己決定できるように支援している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		家族の意向により、状況に合わせた提案や利用の方法などの観点から支援を行っている。また各関係機関と連携を行い、情報共有や状況の把握をしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		医療機関との連携はないが、必要に応じて各関係機関と連携をとり体制を整えられるように努めている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校や保護者と情報共有を行い対応している。送迎時の対応も保護者様を通じて学校側へ連絡を適切に行っている。	家族の移行や状況に合わせて各関係機関と連携を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	必要とする際は情報共有するなどの対応に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	4		移行へのタイミングに立ち会ったことがないので、わかりません。学校を卒業する対象児童がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	交流会という事ではないが、公園等にて会った際には関わる事もある。センター以外のOT,PTより助言を受ける機会はある。	必要に応じて連携はしているが、支援センターよりスーパーバイズや助言をもらうことはない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	2	外出時に交流する機会がある。オンラインでの交流はしている。	事業所同士で企画を立てて行う事はなかなか難しく、できていないが、外出時の場で交流がもてるように機会を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	こども福祉協議会には参加している。	参加できる時間が設けられない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎時や連絡帳などを通してお子様の状況を報告し共通理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		保護者会や活動公開時に外部講師を依頼し実施している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に実施している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		送迎時や聞き取りの日程を調整しご家族の意向を確認する機会を設けている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		送迎時や電話などで支援内容の説明を行い同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者会・モニタリング・電話等で相談に対応している。また助言を含め一緒に考え寄り添えるような支援を心がけている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		父母の会が無い為活動支援は行っていない。活動公開を通してきょうだい交流の場を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情があった場合、管理者に報告し迅速かつ適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		定期的におたよりを発行し保護者様への情報発信に努めている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報に関する書類は鍵付きの書庫に保管し、破棄する書類についても粉砕後焼却処分するなど情報漏洩に繋がらないように努めている。職員には、必要な場合を除き口外しないよう周知している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		保護者様に日々の活動動画や写真などで、見て頂くことで情報伝達を見える化し努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	事業所に招待することは難しいかもしれないが、行事やイベントに積極的に参加し地域との交流を図っている。	今後も前向きに検討・協議していきたい。
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各マニュアルの策定は行っているが、訓練や実施まで至っていない部分がある。
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCP策定済み。定期的に活動に加え訓練などを行っている。	
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		予防接種については把握していないが、服薬が必要な方に対しては保護者に確認をしている。	
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		7	食物アレルギーの児童に対して指示書の提示をお願いしておらず、保護者様からの聞き取りにより対応している。	
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットの情報を共有し再発防止に努めている。	今後も情報の共有や再発防止に向けた検討を実施していきたい。
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		委員会を設置し会議や研修を通して適切な対応に繋がるよう努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画書に記載している。	対象となる可能性がある利用者とその家族には十分な説明を行い、会議の中でも情報共有を図っている。	